

【研究主題】

「言葉の力で考えを深める児童の育成」
～言語活動の充実を図った学習過程の工夫～

公開授業学習指導案集

学年・組	単元名	教材名	指導者
1年1組	びっくり! どうぶつの 赤ちゃん クイズ大会をしよう	くらべてよもう どうぶつの 赤ちゃん	浅田 香織
2年2組	ししゅうを作ろう! わくわく・どきどき2年生!	見たこと かんじたこと	田中 香織
3年1組	2年生に紹介するよ! 豆太のわくわくリーフレット	モチモチの木	須藤 和久
4年2組	リーフレットでみ力紹介! プラタナスの木を読んで	プラタナスの木	松木 秀実
5年2組	伝えよう! あなたの意見	あなたは、どう考える	伊藤 理絵
6年2組	未来の私たちに送る 言葉のプレゼントポスターを作ろう	メディアと人間社会、 大切な人と深くつながるために	畑上 泰志
若草学級	若草学級のよさを1年生に紹介しよう		亀竹 敬

令和4年2月4日(金)

昭島市立共成小学校

第1学年 国語科学習指導案

対 象 第1学年1組 28名
 授業者 浅田 香織
 場 所 1年1組教室

- 1 単元名 「びっくり！どうぶつの赤ちゃんクイズ大会をしよう」
 教材名 「くらべてよもう どうぶつの赤ちゃん」

2 単元の目標

- ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
 (知識・技能)
- ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思考・判断・表現)
- 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知識・技能)
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
 (思考・判断・表現)
- 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思考・判断・表現)

3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 ② 読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。	① 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 ② 「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ③ 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。	① 学習の見通しをもち、文章の内容を比べながら粘り強く読むことで、本から得たことを友達に知らせようとしている。

4 単元構想

(1) 単元観

本単元では、「くらべてよもう」を目標として説明的文章を読む活動と読んだことを生かして、クイズ形式で書く活動を複合的に行うこととした。

教材文では、ライオンとしまうまの「生まれたばかりの様子」と「大きくなっていく様子」を読み取っていく。「生まれたばかりの様子」は、「体の大きさ」「目や耳の様子」「親と似ているか」について、「大きくなっていく様子」は、「歩くときの様子」「お乳を飲む期間」「自分で食べ物をとって食べる時期」という観点で比較する。それぞれの観定の「ちがい」が分かるよう大事な言葉や文を見付け、書き抜く学習を積み重ねる。

動物の赤ちゃんについて、自分の知らなかったことを知り、さらに調べることで新たな発見をし、「びっくり！」したことを友達に伝えるため、クイズ形式で書くという活動につなげたい。クイズを作るためには観定が必要になるので、比べている観定を明確にして読むことのよさ、必要性を感じられると考える。そして、それぞれの動物の違いに驚き、他の動物の赤ちゃんについても知りたくなり、興味・関心を広げ、並行読書していけるとよい。

また、個々の発見や驚き、疑問を友達と交流することによって、共有し、共感し、クイズを出し合って対話を膨らませていき、深い学びとしたい。

(2) 児童観

児童は、これまでに「くちばし」、「うみのかくれんぼ」、「じどう車くらべ」の単元で、説明的文章を読み、図鑑を作ることを経験している。「じどう車くらべ」では、じどう車の「しごと」と「つくり」について付箋を活用して書き抜く活動を通して、内容を読み取り、自分の選んだ自動車について調べ、紹介カードを書くことができた。学習に前向きに取り組むことができ、書く活動を積み重ねてきた。しかし、順序立てて考え自分の思いを伝えることが難しい様子や、語彙が不足している様子等が、多くの児童に見られる。本時では、比べて読むことを大切に、新たな驚きや発見に気付かせ、比べて読むよさを実感することで、自分が話したり書いたりするときや、日常生活の中で生かせるようにしたい。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 【言葉の力に着目した学習過程の工夫】

①単元計画において、身に付させたい力、ゴールの姿を明確化する。

本単元では、比べて読み相違する関係を理解する力、文章を読んで感じたことや分かったことを共有する力を身に付けさせたいと考える。そのために、比べる観点を意識して考えを進める。

②単元を貫く目的意識、相手意識

学年で「動物の赤ちゃんクイズ大会」を開くことをゴールとして学習計画を立てる。単元のめあては、相手意識、目的意識が明確になるように「学年みんなで動物の赤ちゃんのクイズ大会をしよう」と設定する。

③自己の変容を感じさせる振り返りの時間を設ける。

自分が分からなかったことが分かった、友達の意見を聞いて初めて知った、新たな疑問が出てきたなどを振り返りに書くようにする。全体にも紹介し、次時につなげ、単元のめあてを意識させる。

(2) 【指導方法の工夫】

①導入で教師によるクイズのモデルを示す。動物の赤ちゃんのクイズを児童に出して関心を高め、自分たちでクイズを作るために、教材の説明的文章を読み、観点で比べていく活動を積み重ねることを意識させる。

②表を活用し、比べる観点を可視化し考えを深める。ワークシートの表に、観点ごとに読み取った動物の赤ちゃんの様子を書き、ペアで見せ合いながら交流し、自分の考えを振り返って内容を深めていく。その比べる観点を大切に、クイズを作成していくことで考えを深める。

(3) 【言語感覚の育成】

①並行読書によって、他の本を読んでいるいろいろな動物の赤ちゃんについて調べる活動を取り入れる。そのために、司書と連携し、関連する本を用意し、1年生の実態に合った本の選定を行う。比べて読むことで新たな驚きや発見があり、比べて読むよさを感じ、友達に伝える意欲とする。

②音読の宿題を通して、言葉に親しむ時間を増やす。

③教室に教科書の全文を掲示し、自分のクイズを作るときの観点、文章の参考にさせる。

6 単元の指導計画と評価計画（10時間扱い）

	時	○目標	・主な学習活動	観点 主とする評価 (評価方法)
第1次	1 ・ 2	○初めて知ったこと、もっと知りたいことなどを出し合い、学習の見通しをもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな動物の赤ちゃんの写真を見て、動物の赤ちゃんへの関心をもつ。 ・初めて知ったことや不思議に思ったことを話し合う。 ・「どうぶつの赤ちゃんについて、かかっていることをくらべながらよみ、どうぶちの赤ちゃんクイズをつくる」という単元の学習課題を確認する。 	ウー①（観察・発言）
第2次	3 ・ 4	○ライオンとしまの赤ちゃんの「生まれたばかりのようす」を比べながら読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ライオンとしまの赤ちゃんの「生まれたばかりのようす」を比べながら読み、観点ごとにまとめる。 ・読み取ったことを出し合い、どのような違いがあるのか、気付いたことを発表する。 	アー①（ワークシート） イー① イー③ (発言・ワークシート)
	5 ・ 6	○ライオンとしまの赤ちゃんの「大きくなっていくようす」を比べながら読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ライオンとしまの赤ちゃんの「大きくなっていくようす」を比べながら読み、観点ごとにまとめる。 ・お母さんとの違いや、成長過程での親子のつながりについて確認する。 ・読み取ったことを出し合い、どのような違いがあるのか、気付いたことを発表する。 	
	7 【本時】	○「カンガルーの赤ちゃん」をライオンとしまの赤ちゃんと比べながら読み、観点ごとにまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「カンガルーの赤ちゃん」をライオンとしまの赤ちゃんと比べながら読み、観点ごとにまとめる。 ・読み取ったことを出し合い、どのような違いがあるのか、気付いたことを発表する。 	
第3次	8 ・ 9 ・ 10	○動物の赤ちゃんについて、知りたいことを調べ、必要な言葉や文を書き抜いて、まとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・他の動物の赤ちゃんについて書かれた本を読み、生まれたばかりの様子や大きくなっていく様子を調べる。 ・必要な言葉や文を書き抜いて、まとめる。 ・まとめたものを基に、クイズ形式にする。 ・クイズを出し合い、まとめたものを友達と読み合い、比べながら、気付いた違いを発表し合う。 ・学習を振り返る。「たいせつ」を確認し、比べながら読むことで、違いがよく分かったことを振り返る。 	アー②（観察） イー②（ワークシート） イー③ (観察・ワークシート) ウー① (観察・ワークシート)

7 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・「カンガルーの赤ちゃん」をライオンとしまうまの赤ちゃんと比べながら読み、観点ごとにまとめることができる。

(2) 本時の展開 (7/10 時)

分	学習活動	指導の工夫 ・留意点 ☆評価規準【評価方法】
5分	1 「カンガルーの赤ちゃん」を音読する。 ・前時までの学習を想起し、どの観点でまとめたか確認する。 ○生まれたばかりの様子は、 ①大きさ ②目や耳の様子 ③親と似ているか 大きくなっていく様子は、 ①動き方 ②お乳を飲む期間 ③自分で食べ物を捕り始めるとき	・並行読書の様子を確認する。本時は、カンガルーの赤ちゃんについて説明した文章を読み、次の自分の調べたい動物の赤ちゃんにつながることを意識させる。 ・教室に前時までの観点によるまとめが分かるように掲示を積み重ねておく。
10分	2 本時のめあてを確認し、カンガルーの赤ちゃんの様子を読み取り、ワークシートにまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「カンガルーの赤ちゃん」を、ライオンやしまうまの赤ちゃんとくらべながらよもう。</div> ・ワークシートに書く。	
10分	3 ライオンとしまうま、カンガルー、それぞれの赤ちゃんを比べて、似ているところや違うところを見付け、共有する。 ・自分の考えと比べながら友達の意見を聞く。 ・ペアで交流する。全体で交流する。 ○カンガルーの赤ちゃんも、お乳を飲んで大きくなるので、ライオンやしまうまの赤ちゃんと似ています。 ○大きくなると自分でえさを食べるころは、似ています。 ○カンガルーは、小さな前足で、お母さんのお腹にはい上がるところが違います。 ○赤ちゃんのときは、お母さんに似ていないのは、ライオンと同じで、しまうまと違います。	・前時までと同じように、読みながら色鉛筆でサイドラインを引いてから、書き抜くように支援する。 ・教科書のどの部分の叙述を引用したのかを明確にさせる。 ☆「カンガルーの赤ちゃん」を、比べている観点を意識して読み、観点到当てはまる言葉や文を書き抜いてまとめている。 【発言・ワークシート】
10分	4 全体で共有したことを基に自分のワークシートを見直し、違いを比べてびっくりしたこと、思ったことや考えたことを書く。 ○カンガルーの赤ちゃんが、とても小さくてびっくりしました。 ○動物によって、赤ちゃんが全然違うのだなと思いました。 5 カンガルー、ライオン、しまうまの赤ちゃんを比べて、「わたしは誰でしょうクイズ」を作る。 ○クイズ「赤ちゃんの大きさは、1円玉くらいです。私は、誰でしょう。」 ○クイズ「お母さんのお乳を飲む期間は、6ヶ月くらいです。私は、誰でしょう。」	・書いたことをペアで交流する。 ・クイズ形式の話型を示し、観点の何を選ぶかを考えて文にするよう促す。 ・答えの後に、解説を付け足して話せるようにする。
10分	6 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	・次時は、本時で学習したことを生かして、自分の調べたい動物の赤ちゃんについてまとめ、書こうという意識をもたせる。

第2学年 国語科学習指導案

対 象 第2学年2組 27名
授業者 田中 香織
場 所 2年2組教室

1 単元名 「ししゅうを作ろう！わくわく・どきどき2年生！」

教材名 「見たこと かんじたこと」

2 単元の目標

- ◎経験したことや想像したことなどから書くことを見付けることができる。(思考・判断・表現)
- 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知識・技能)

3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	①身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使っている。	①「書くこと」において経験したことや想像したことなどから書くことを見付けている。	①積極的に経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、これまでの学習を生かして詩を書こうとしている。

4 単元構想

(1) 単元観

本単元では、児童は同じ2年生が作った詩を味わったり、自分で詩を作ったりする活動を通して詩に親しみ、その楽しさに触れる。ここでは詩について、「見たことやかんじたことを、みじかく書きあらわしたもの」と簡潔かつ明確に説明されている。そのように表現するよさを学び、実際の作詩に臨ませたい。

ものの見方や感じ方を豊かにする経験として、「きせつのことば」で季節を感じる様々な風物に目を向け、2年上巻「かんさつ名人になろう」では、対象を丁寧に観察し、文章にまとめて表現する経験を積んでいる。本単元の直前には、「ようすをあらわすことば」で、様子を表す言葉について丁寧に学習してきている。本単元の活動は、それら全ての学習経験を生かせる活動である。

(2) 児童観

本単元で、本学級の児童は初めて自分で詩を作る。児童は、これまで「夏がいっぱい」「秋がいっぱい」「冬がいっぱい」で繰り返し俳句を作るなど、季節の事柄について言葉で表す経験を積んできた。また、2学期には「雨のうた」では、擬音語や擬態語を用いて一つの節を作り、3学期には、「ようすをあらわすことば」では、形容詞(副詞)、擬音語(擬態語)、比喩について改めて学習した。それらの経験を生かして、今回の作詩を行わせる。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 【言葉の力に着目した学習過程の工夫】

①単元の流れの工夫

- ・めあて… ・身に付けさせたい力を明確にし、児童が学習の見通しをもつことができるよう
なめあてを提示する。
- ・見通す… ・学習の最初に詩集を作ることを知らせ、学習の流れ（単元全体）を共有する。
・振り返りシートには、学習内容の流れやめあてを記載し、いつ・何を学習する
のかを明確にする。
・クラスみんなで一つの詩を作る経験をする中で、「詩を作ることは、今ある
力を使って十分にできること」という見通しをもって取り組ませる。
- ・考えをもつ… ・思考ツール「Xチャート」や「ウェビングマップ」を用い、経験したことや体
験したこと、感じたことを可視化する。
- ・共有する… ・「ウェビングマップ」で可視化した自分の考えを友達と意見交換することで、
友達の意見を参考にし、自分の考えをさらに深められるようにする。
- ・振り返り… ・毎時間の振り返り（5分間）では、四つの視点を中心に自分の学習を振り返ら
れるようにする。
(1) 分かったこと・できたこと (2) 見つけたこと (3) これからやりたいこ
と (4) 分からなかったところ

②学習の導入で、「2年2組の詩集をつくる」という目標を示すことで、目的意識と学習の見通しを
もたせる。

③児童がこれまでの体験や経験を言葉に表しやすくするよう詩の形式は、自由詩とする。

(2) 【指導方法の工夫】

- ①まず、Xチャートに四つの観点で経験したことや体験したことを書く。俳句を作成してきた経験を
生かし、Xチャートの観点を俳句と同じ「食べもの」「生きもの」「しょくぶつ」「そのた」とする。
裏面には、「うれしかったこと」「かなしかったこと」「かんだうしたこと」「びっくりしたこと」の
観点のXチャートを載せ、書きやすい方を選択させる。
- ②Xチャートに書き表したことから詩に表したいことを選択し、一つのテーマについて様々な観
点を書くことができるようにウェビングマップを使用する。
- ③初めての作詩となるため、児童が自分の力で作詩できるように以下の段階を踏む。
教科書や市販されている詩集を読む→思考ツールを使って詩の題材を選ぶ→クラスで一つの詩を
作り、詩の作り方を学ぶ（本時）→自分で詩を作成する
- ④ペアで話し合い、友達の考えを知る機会をもつ。
- ⑤情景詩の場合など、作りたい詩のテーマによっては、タブレットを使用し、一つの事柄について詳
しく調べさせる。

(3) 【言語感覚の育成】

- ①今まで学習してきた俳句や作詩に使わせたい表現を教室内に掲示しておく。
- ②考えをもつための思考ツールを活用し、共有した後に自己の考えを再構築できるように、ペアで話
合い活動を行う。
- ③詩の本を朝読書や隙間時間に読むよう促したり、読み聞かせをしたりする。

6 単元の指導計画と評価計画（7時間扱い）

	時	○目標	・主な学習活動	観点 主とする評価 (評価方法)
第1次	1	○心が動いた経験を振り返り、すすんで詩を読んだり書いたりする。	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で心が動いたことを考えさせることで、詩に表現する経験を探す前準備をさせる。 学習課題を示すことで、学習のゴールを明確にする。 	ウー① (発言・ワークシート)
第2次	2・3	○思考ツールを使用し、心が動いた経験についての言葉を集める。	<ul style="list-style-type: none"> Xチャートを書き、「心が動いたこと」について振り返る。 Xチャートに書いた事柄の中から、詩にしたいと思う事柄を選び、ウェビングマップに書き、イメージを深める。 	アー① (ワークシート) イー① (発言・ワークシート)
	4【本時】	○同じテーマで詩を作り、自分の詩を作るための見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> クラスで一つのテーマを選択し、みんなで詩を作る。 各々で同じテーマについてウェビングマップを作成する。 それぞれのウェビングマップを発表し合い、クラスで一つのウェビングマップをつくる。 ウェビングマップの中の言葉を使って、みんなで「節分」の詩の前半を作る経験をさせる。 前半の作り方を活かして「節分」の詩の後半を各々で作る。 	イー① (発言・ワークシート)
第3次	5・6	○経験したことから書く材料を集め、表現の工夫を使って詩を書く。	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習した表現の工夫を使って各々の詩を書く。 	アー① (ノート) イー① (ノート)
	7	○互いの作品の良さを見付け、伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> 友達の書いた詩を読み、感想を伝え合う。 	ウー① (発言・ノート)

7 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・クラスみんなで同じテーマで詩を作り、自分の詩を作るための見通しをもつ。

(2) 本時の展開 (4/7時)

分	学習活動	指導の工夫 ・留意点 ☆評価規準【評価方法】
導入 5分	1 本時のめあてを確認する。 前時の振り返りをする。	・次時に一人一人で作詩をするため、その前に詩の作り方を確認することを伝える。
	<p>みんなで詩^しを作って、自分の詩^しを作るための自信をつけよう。</p>	
展開 35分	2 「節分」についてウェビングマップを作成する。	・児童が自分で選んだテーマと重ならないように前日の「節分」をテーマとする。
	3 書いたウェビングマップを隣の友達と見せ合い、互いにアドバイスを伝え合う。	・前時までに学習してきた「形容詞」「擬音語」「擬態語」「比喩」などの表現を使うように指導する。
	4 それぞれの作ったウェビングマップを全体で発表する。	・考えを深めさせるため、ウェビングマップを隣の席の友達と見せ合い、いいなと思ったことがあれば、赤鉛筆で付け足すよう指示する。
	5 ウェビングマップに書いた事柄の中から言葉を選択しながら、みんなで「節分」の詩の前半を作成する。	☆自分の詩を作るための見通しをもって作詩している。【発言・ワークシート】 ・言葉のリズムや情景を大切にし、クラスで一つの詩を作る。 ・教師主導で作詩するのではなく、児童の発言から作詩をするように心掛ける。
	6 作詩に必要なポイントを確認し、「節分」の詩の後半を一人一人で作る。	・作詩に必要なポイントを確認する。 ポイント→ 思ったこと 感じたこと 様子が伝わる言葉 言葉のリズム 句読点を使わない
まとめ 5分	7 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	・四つの観点の中から、今回のテーマに沿ったものを選択して書かせる。

第3学年 国語科学習指導案

対 象 第3学年1組 38名
授業者 須藤 和久
場 所 3年1組教室

1 単元名「2年生に紹介するよ！豆太のわくわくリーフレット」
教材名「モチモチの木」

2 単元の目標

- ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（思考・判断・表現）
- 登場人物の性格や気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思考・判断・表現）
- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知識・技能）

3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の評 価 規 準	①登場人物の会話や行動、様子などに着目して読み、様子や行動、気持ちや性格を表す語彙を豊かにしている。 ②相手を見て話を聞いたりとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。	① 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。 ② 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。 ③ 「話すこと・聞くこと」では、相手に伝わるように理由を挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。	① 登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しようとしている。

4 単元構想

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領第3学年及び第4学年の「C 読むこと」の(エ)登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。また、(オ)文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。(カ)文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。を受けて設定されている。単元のゴールを、豆太を紹介するリーフレット作りとし、「モチモチの木」の登場人物の「豆太」の性格を、場面ごとに豆太の性格や心情を読み解きながら学習を進めていく。初読後と学習を読み進めた後の豆太の人物像の読み取りの違いをチャートにして表し、交流することで、自分と友達との感想や理由

のもち方の違いにも気付かせたい。作成したオリジナルのリーフレットは2年生に紹介した後、学校図書館にも展示し、他学年の児童にも作品の魅力に触れさせる機会とする。

(2) 児童観

本単元では、文章中の叙述を基に登場人物の性格や人間性を読み取っていくことが重要である。3年1組の児童は、見通しがもてると学習に自信をもって取り組むことができる。単元のゴールを児童と共有することで、目的意識をもって学習に取り組めるようにしていきたい。また、感染症対策の中での学校生活を送ってきているため、「友達の考えを聞いて自分の考えが深まった」という経験が少ない。そのため、自分の考えを可視化できる思考ツールを用いての話し合い活動を取り入れ、自己の考えの変容に気付けるようにしていきたい。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 【言葉の力に着目した学習過程の工夫】

①見通す

- ・初発の感想を基に、「豆太の性格紹介リーフレット」を作る学習計画を立てる。

②考えをもつ

- ・「豆太はどんな性格か」をレーダーチャートに表す。
- ・考えの根拠となった文や理由も明確にする。
- ・友達との話し合いを通して、自分の考えを改めて考える。

③共有する

- ・互いのレーダーチャートを見て、考えを比較する。
- ・友達の発表を聞いて、自分の考えと同じところ、違うところに着目して聞きメモを取る。

④振り返る

- ・第2次では、豆太の性格について場面ごとに気が付いたことや印象に残ったことを書き、リーフレット作りにつなげていく。
- ・話し合いを通して起こった自分の考えの変容、またその理由などについて振り返り、ワークシートに書く。

(2) 【指導方法の工夫】

①「モチモチの木」の大きな要素の一つとして、「語り手」の存在がある。登場人物は常に「語り手」の見方や考え方を通して、語られることになる。このことは児童の「豆太」や他の登場人物の捉え方に大きく影響し、意見が分かると考えられる。だからこそ「伝え合う」ことに必然性が生まれる。友達の意見との共通点や相違点に着目し、自分の読みを深められるようにする。

②思考ツールとして「レーダーチャート」を用いる。この思考ツールは、複数の項目の大きさを一見して比較できるグラフである。項目ごとに点数化し、直線で結んで作成する。このツールを使用することで、読み取りと考えを視覚化することができる。また、友達とチャートを見合い比較し、考えを交流することによって、多様な考えに触れ、自身の学びに気付けるようにする。

(3) 【言語感覚の育成】

- ①友達のレーダーチャートと比較することで、自分の考えとの違いに気づき、話し合う際の視点が分かりやすくなるようにする。
- ②友達の意見を聞いて自分の考えが変わったところに関しては、「最初は〇〇だと思っていたけど、〇〇さんの発表を聞いて〇〇に変えました。」など変えた理由についても書かせる。

6 単元の指導計画と評価計画（12時間扱い）

	時	○目標	・主な学習活動	観点 主とする評価 (評価方法)
第1次	1・2	○初発の感想を基に、単元の目標を決め、学習計画を立てる。	・題名を見て、物語の内容を予想する。 ・「モチモチの木」の範読を聞いて、初発の感想を書く。	イー① (ワークシート)
	3	○登場人物の会話や行動、様子、語り手の言葉などに着目して読む。 ○登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて、具体的に考える。	・「おくびょう豆太」の場面を読み、二人の性格や気持ち、語り手の二人に対する見方を読み取る。	アー① (発言・ワークシート) イー① (発言・ワークシート)
4	・「やい、木い」の場面を読み、二人の性格や気持ちを読み取る。		ウー① (発言・ワークシート)	
5	・「霜月二十日のぼん」の場面を読み、二人の性格や気持ちを読み取る。		イー③ (発言・ワークシート)	
6・7	・「豆太は見た」の場面を読み、二人の性格や気持ちを読み取る。		イー③ (発言・ワークシート)	
8	・「弱虫でも、やさしけりゃ」の場面を読み、二人の性格や気持ちを読み取る。			
	9		・「豆太」がモチモチの木の灯を見た理由を考える。	
第3次	10	○文章を読んで理解したことに基づいて、考えをもつ。	・「豆太はどんな性格か」をレーダーチャートに表す。	イー② (ワークシート) イー③ (発言・ワークシート)
	11 【本時】	○友達と考えを発表し合い、比較することで、自分の考えを見直す。	・友達との話し合いを通して、登場人物の性格について自分の考えを改めて考える。	ウー① (ワークシート)
	12	○リーフレットを作成する。	・完成したワークシートを基に、「豆太の性格紹介リーフレット」を作る。	イー② (リーフレット)

7 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・友達と考えを発表し合い比較することで、登場人物の性格について、自分の考えを見直すことができる。

(2) 本時の展開 (11/12 時)

分	学習活動	指導の工夫 ・留意点 ☆評価規準【評価方法】				
導入 5分	1 本時のめあてを確認する。 友だちの発表を聞いて、豆太のせいかくを見直そう。 前時の振り返りをする。					
展開 5分 20分 8分	2 グループで意見交換をする。 ・発表の仕方、聞き方を確認する。 ① 3人1組での発表の仕方 <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">聞き手</td> <td style="padding: 5px;">聞き手</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; padding: 5px;">話し手</td> </tr> </table> </div> ② 聞き方 友達の発表を聞いて、自分の考えと同じところ、違うところに着目して聞きメモを取る。また、意見があれば発表後に言う。 ・前時で作成したレーダーチャートを見せ合いながら、豆太の性格について意見を交換する。 ① 友達のレーダーチャートをワークシートに写す。 ② 話を聞く。 ③ メモを書く。	聞き手	聞き手	話し手		<ul style="list-style-type: none"> ・意見を述べる際には、「臆病が○ぐらいだと思います。なぜかという、○ページに_____と書かれているからです。」といったように、数値、その根拠についてふれるように指導する。 ・数値にばかり注意が向いてしまう児童もいると想定されるので、事前に「なぜならば」の部分に注目して聞くように指導する。 ・児童が今何をするときなのか視覚的に分かるようにする。 ・一人の発表時間を5分と決め、話し合い活動が間延びしないようにする。
聞き手	聞き手					
話し手						
まとめ 7分	3 自分のレーダーチャートの数値を見直す。 ・友達の発表を受け、自分の考える豆太の性格を改めてレーダーチャートにまとめる。 4 本時の学習を振り返る。 ・話し合いをしたことによって、自分の考えが変わったのか、変わらなかったのか、またそれはどうしてなのかなどについて振り返り、ワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠があれば、自分の考えを無理に変える必要はないことをあらかじめ伝えておく。 ☆友達と考えを発表し合い比較することで、登場人物の性格について、自分の考えを見直している。【ワークシート】				

第4学年 国語科学習指導案

対 象 第4学年2組 28名
授業者 松木 秀実
場 所 4年2組教室

- 1 単元名 「リーフレットでみ力紹介！プラタナスの木を読んで」
教材名 「プラタナスの木」

2 単元の目標

- ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思考・判断・表現)
- ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。(思考・判断・表現)
- ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知識・技能)

3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。	①「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。 ②「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	①学習の見通しをもって、積極的に登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、物語の魅力を紹介する文章を書こうとしている。

4 単元構想

(1) 単元観

本単元では、「プラタナスの木」を教材とし、登場人物の気持ちやその変化を捉える力を育成する。登場人物の気持ちの変化や性格、情景、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読み取っていくことが重要である。その力を生かして、各自が捉えた内容を中心に物語の魅力を紹介する言語活動を設定している。

物語の味わい方には人によって異なるものであり、同じ作品を読んでも共感するところや感動する内容は様々である。本作品においても、中心人物の気持ちの変化については、多様な捉え方ができると考える。本作品の中心人物とその友達、学習する児童と同じ4年生であり、小さな公園でサッカーを楽しむ小学生という、どこにでもいそうな人物設定である。他者の紹介を聞き、異なる視点に触れることで読みを深めることが大切である。物語の魅力、「登場人物」「情景」「表現」の視点でメリットを分かりやすく整理できるワークシートを活用することで、自分の考えた物語の魅力を分かりやすく相手に伝えることができると考える。本学習を通して自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができ、一人一人の感じ方や考え方の違いに気付かせる力を身に付けさせたい。

(2) 児童観

4年2組には、学習意欲の高い児童が多い。その反面、見通しをもてなかったり、実体験がなかったりすると学習に消極的になる傾向にある。「例えば…」と具体例を示したり、モデルとなる児童の発表を共有したりすることによって、理解を深めることができる児童が増えてきている。児童の実態から、自分の体験と本文の登場人物の心情を合わせることにより、読みを深めることが有効であると考へた。また、学習のゴール設定を具体化することで、児童が見通しをもって学習を進める力が身に付いてきていると感じている。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 【言葉の力に着目した学習過程の工夫】

- ①めあて… ・身に付けさせたい力を明確にし、児童が学習の見通しをもつことができるようなめあてを提示する。
- ②見通す… ・学習の最初に教師が作成したリーフレットを提示し、学習の流れ(単元全体)を共有する。
・振り返りシートには、学習内容の流れやめあてを記載し、いつ・何を学習するのかを明確にする。
- ③考えをもつ… ・思考ツール「くま手チャート」を用い、物語の魅力についての項目に分けて書くことで、自分の考えを可視化する。
- ④共有する… ・「くま手チャート」で可視化した自分の考えを友達と意見交換することで、友達の意見を参考にし、自分の考えをさらに深められるようにする。
・毎時間の振り返りでは、三つの視点を中心に自分の学習を振り返られるようにする。
(1)「できたこと」 (2)「思ったこと」 (3)「これからのこと」

(2) 【指導方法の工夫】

- ①本文を読んで心に残ったことを付箋に書く。その後、「くま手チャート」(思考ツール)を活用し、「登場人物」「情景」「表現」の視点に分けて、物語の魅力を書く。
- ②考えを共有して、自分の考えの変容に生かすために、共有するポイントを本時では以下に示す。
 - ・友達の意見を聞いて、良いと思ったこと。
 - ・友達の意見を聞いて、違うと思ったこと。
 - ・友達の意見を聞いて、疑問に思ったこと。
- ③自分の考えの変容に気付かせる手だてとして、同じと思ったこと、違うと思ったこと、疑問に思ったこと等という視点をもたせて、自己の変容を感じさせる振り返りの時間を設ける。
- ④ICT、Google Jamboardの活用
 - ・物語の魅力項目ごとに整理しやすいように、Google Jamboardを活用する。
 - ・全体で共有したことを基に自分のワークシートを見直しやすいように、Google Jamboardを活用する。

(3) 【言語感覚の育成】

- ①言葉の力を高めるために日常的に辞書で語彙の意味調べをする。
- ②自分の考えをもつために、思考ツールを活用し、共有した後に自己の考えを再構築できるように、ペアで話し合い活動を行う。
- ③音読の宿題を通して、言葉に親しむ時間を増やす。
- ④気持ちを表す言葉(気持ちを表す言葉カード、作文の書き方)を児童自身が活用し、語彙を豊かにする。

6 単元の指導計画と評価計画（9時間扱い）

次	時	○目標	・主な学習活動	観点 主とする評価 (評価方法)
第1次	1	○単元のめあてや学習計画を立て、場面の様子を想像しながら読んで初発の感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画を立て、見通しをもつ。 ・初発の感想を書く。 	ア－①(ワークシート)
	2	○登場人物、時、場などの設定を捉え、物語の大体をつかみ、あらすじを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の設定を捉え、あらすじをつかむ。 	イ－① (ノート・ワークシート)
	3	○場面を確かめ、それぞれの場面の様子や出来事をまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・誰の視点で書かれたものかを確かめる。 ・場面を確かめ、それぞれの場面の様子や出来事をまとめる。 	ア－① (発言・ワークシート)
	第2次	4	○会話文や行動、情景などの叙述に着目して、登場人物の変化やそのきっかけを想像して考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の最初と最後で中心人物がどのように変化したのかを考える。 ・中心人物が変わるきっかけとなった出来事についての自分の考えをまとめる。
	5	○中心人物の気持ちについて、想像したり、考えたりしたことを、友達と交流して考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の場面で中心人物が感じていたことについて、自分の考えをまとめる。 	イ－② (発言・ワークシート)
第3次	6	○これまでの学習を振り返り、物語の魅力が付箋に書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の魅力が付箋に書き出す。 	ア－① イ－②
	7 【本時】	○ワークシートを使って「プラタナスの木」の魅力について友達と交流し、自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「プラタナスの木」の魅力をワークシート(くま手チャート)にまとめる。 	ウ－① (観察・ワークシート) イ－② (発言・ワークシート)
	8 9	○紹介する文章を友達と読みあい、よさを見付けたり、自分の考えを広げたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「プラタナスの木」の魅力を紹介する文章(リーフレット)を書く。 ・「リーフレット」を友達と読み合い、感想を伝え合う。 ・学習を振り返る。 	

7 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・ワークシートを使って「プラタナスの木」の魅力について友達と交流し、自分の考えをまとめる。

(2) 本時の展開（7/9時）

分	学習活動	指導の工夫 ・留意点 ☆評価規準【評価方法】
導入 5分	1 前時までの学習を振り返る。 本時のめあてを確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴールを意識させるために、本時のめあてを確認する。 ・前時までに使用したノートや付箋を掲示し、物語の魅力を整理しやすくする。
展開 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 物語の魅力を、友だちの考えを参考にしながら、まとめましょう。 </div> 2 ワークシートに紹介したい物語の魅力について、整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「登場人物」「情景」「表現」の観点で書いた内容を対応させる。 ・書いた内容が自分の伝えたいことになっているか確認する。 4 全体で共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと比べながら友達の見解を聞く。 5 全体で共有したことを基に自分のワークシートを見直す。 <ul style="list-style-type: none"> ・友達の見解を参考に自分の考えを再考する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「登場人物」「情景」「表現」などの視点を割り当てて、多面的に物語の魅力について整理できるように、くま手チャートを用いる。 ・ノートや付箋からワークシートに書き出すときのモデリングを示す。 ・配慮が必要な児童には、教師のモデルを参考にしていよいことを伝える。 ・「悲しい」や「楽しい」などの簡潔な言葉でまとめることがないように、まとめ方について助言する。 ・本時のねらいに関連する言葉や共通する考えを整理し、児童の言葉でまとめられるようつないでいく。 <p>☆物語の魅力について、想像したことや叙述と結び付けて考えたことを書くことができ、自分の考えとその理由をまとめることができる。【観察・ワークシート】</p>
まとめ 5分	6 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてに対して本時の振り返りを書くことと、単元計画についても「できたこと」「思ったこと」「これからのこと」の観点で評価するように促す。

第5学年 国語科学習指導案

対 象 第5学年2組 24名
授業者 伊藤 理絵
場 所 5年2組教室

1 単元名「伝えよう！あなたの意見」
教材名「あなたは、どう考える」

2 単元の目標

- ◎ 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思考・判断・表現)
- 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思考・判断・表現)
- 「目的や意図に応じて、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けたり、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(思考・判断・表現)
- 文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知識・技能)

3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。 ②「書くこと」において、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ③「書くこと」において、目的や意図に応じて、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。	① 粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。

4 単元構想

(1) 単元観

本単元は読み手が納得するような意見文を書く学習である。相手が納得するためには、データや体験などの具体的で客観的な根拠、理由が複数必要である。このとき、反論を想定し、自分の考えに共感しない人もいることを想定して書くことが大切である。相手意識、目的意識を明確にもつことが、深い学びを実現する第一歩となる。そこで、意見文を読む相手は学級の友達とし、「友達を納得させる」という意欲をもって活動することを目指す。そのために、思考ツールを活用しながら理由と根拠を示すこと、グループ活動を通して他の立場から主張を見直すことを重点として指導を行う。

(2) 児童観

学習には教科に関わらず積極的に取り組む姿勢が見られる。身近な話題について自分の考えを話すことが好きな児童が多く、少人数での話合いやディベートでは、どのグループも積極的に交流することができる。ただし、自分の意見に関する理由を明確にしたり、根拠に基づいて主張したりすることは苦手な児童が多い。また、理由や根拠に基づいて意見文を書くことは、本単元が初めての学習である。今回は話合い活動を取り入れながら、事実と根拠を明確にして構成を考え、意見文を書く学習としたい。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 【言葉の力に着目した学習過程の工夫】

- ①意見文のモデルを示し、見通しをもたせる。
- ②学年で意見文スピーチ大会をするという目的意識をもたせる。
- ③同学年の友達に意見文を聞いてもらい、納得してもらおうという相手意識もたせる。

(2) 【指導方法の工夫】

- ①思考ツール「フィッシュボーン」活用し、意見文の構成を視覚化させる。
- ②思考ツール「バタフライチャート」活用し、主張に対する賛成・反対の意見を視覚化させ、分類や整理をしながら話合いができるようにする。
- ③ICT (Google Jamboard) を使用して、思考ツールを活用することで、効率的かつ視覚的に話合いができるようにする。また、教員と児童間でデータを共有することで、継続的な指導や評価ができるようにする。

(3) 【言語感覚の育成】

- ①友達との話合いを通し、理由や根拠の選択に助言や反論を想定する手がかりを得て、自分の主張を見直すことができるようにする。
- ②理由や根拠を思考ツールにより視覚的に捉えることで、主張を再検討できるようにする。

6 単元の指導計画と評価計画（7時間扱い）

次	時	目標	・主な学習活動	観点 主とする評価 (評価方法)
第1次	1	○意見文を読み、意見文について関心をもつ。 ○学習計画を立て、意見文の題材を決める。	・昭島市子どもの主張意見文コンクールの作品を読んで感想を出し合い、関心を高める。 ・事前に集めていた生活の中で関心のあることや、総合的な学習の時間で学んだSDGsの観点から題材を決める。	イー① (発言・ノート)
第2次	2	○題材について、理由や根拠を挙げる。 ○理由や根拠について考えを深める。	・テーマに対する自分の意見（根拠や理由）を思考ツール（フィッシュボーン）に書き出す。 ・調べる必要のある事柄は、学校図書館やインターネットなどを活用して材料を探す。	イー① (観察・ワークシート)
	3	○題材の例を使って、教師とモデル文を作り、書き表し方の工夫を見付ける。	・説得力のある文章にするため、理由や根拠の示し方を捉える。 ・次回の話し合いの準備をする。	アー①（発言） イー② (発言・ノート)
	4・5 【本時】	○意見文で取り上げる理由や根拠について友達と話し合い、考えを深める。	・客観的な立場からの意見や反論を聞いて、それに対する自分の意見を見直す。 ・互いの立場を明確にして、意見を思考ツール（バタフライチャート）で視覚化しながら話し合いを行う。	イー②（発言） イー③ (発言・ワークシート・Google Jamboard)
	6	○意見文の構成を検討する。 ○考えた意見を基に、意見文を書く。	・「中」の理由や根拠に何を選び、どのように並べたら効果的であるか考える。 ・書き出しの例や事前の述べ方の例など、実際に書くときの手だてを参考に書く。	アー① (観察・ノート) イー② (観察・ノート) ウー① (発言・ノート)
第3次	7	○学級で、意見文を読み合い、感想を伝え合う。	・文章のよいところを中心に伝え合い、自分の文章のよいところや直した方がよいところを見付け、推敲する。	イー③ (発言・ノート)

7 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・意見文で取り上げる理由や根拠について友達と話し合い、考えを深める。

(2) 本時の展開 (5 / 7時)

分	学習活動	指導の工夫 ・留意点 ☆評価規準【評価方法】
導入 3分	1 本時のめあてを捉える。	・スピーチ大会で発表するという単元の目標を改めて確認し、それに向けて意見文に説得力をもたせる必要性を確認する。
	説得力のある意見文にするために、友達と話し合おう。	
展開 10分	2 話し合いの観点を確かめる。 ・話し合いのモデルを映像で見せ、実際の話合いで生かすイメージをもたせながら確認する。	・「賛成」・「反対」という立場や理由、根拠を明確にすることの大切さを実感させる。
	3 テーマに対する理由や根拠について友達と話し合い、他の立場からの意見をもらう。 ・グループごとに賛成・反対の立場に分かれ、意見を聞き合う。 ・思考ツール(バタフライチャート)を活用し、意見を「強い賛成」・「賛成」・「反対」・「強い反対」に分類し、視覚化しながら整理する。 ・質問し合い、相手の考えの意図を十分に理解できるようにする。	・ICT(Google Jamboard)を活用して、個人の意見を付箋で示し、視覚化・共有化する。 ・「根拠」はピンク色、「理由」は青色の付箋にし、事実と考えを区別する。 ☆理由や事例を友達と読み取って、より説得力のあるものとなるよう助言し合っている。【発言・思考ツール】
27分	4 話し合った内容を基に、意見文の構成を見直す。 ・話し合ったことやバタフライチャートを基に、新たな賛成意見や反対意見に対する自分の考えをワークシートにまとめる。 ・説得力のある文章にするための意見を選ぶようにする。	・テーマに対する理由や根拠を視覚化しながら構成を考えられるよう、思考ツール(フィッシュボーン)を活用する。 ☆意見文で取り上げる理由や根拠について友達と話し合ったことを基に、考えを深めている。【ワークシート】
まとめ 5分	5 振り返り ・どのような観点で、理由や根拠を選んだり、新しいものを考えたりしたかを振り返る。	・振り返りシートに書き込ませる。

第6学年 国語科学習指導案

対 象 第6学年2組 26名
授業者 畑上 泰志
場 所 6年2組教室

- 1 単元名「未来の私たちに送る 言葉のプレゼントポスターを作ろう」
教材名「メディアと人間社会、大切な人と深くつながるために」

2 単元の目標

- ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思考・判断・表現)
- 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
(思考・判断・表現)
- 事実と感想、意見などとの叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思考・判断・表現)
- 文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解することができる。(知識・技能)

3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解している。	①事実と感想、意見などとの叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 ②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 ③文章を読んでまとめた意見や感想を有し、自分の考えを広げている。	①複数の文章を読み、自分の知識や経験と結び付け、自分の考えをポスターにまとめて表現しようとしている。

4 単元構想

(1) 単元観

本単元は、大きく三つの学習に分けて考えることができる。一つめに、筆者の主張を正しく捉え、主張する文章の構成や、表現の工夫への理解を深める学習。二つめに、二つの教材文の中に書かれてある考えを比較し、共通点や差異点を整理する活動を通して、自分の考えや、経験と筆者の主張を照らし合わせる。そして、自分のこれからの生き方や考え方を再構築する学習。三つめに、再構築した自分の生き方や考え方を、言葉のプレゼントポスターという形式で表現する学習である。この学習の中で、二つの教材に共通する「付き合い方」についての考えを深めていく。そして、中学校入学後の自分や友達に向けた励ましの言葉、前向きな目標について、友達と考えを交流し合う活動を通し、自分の考えを広げ、その考えをポスターにまとめて表現させていきたい。

(2) 児童観

本学級では、国語科の学習に対し、苦手な意識を抱いている児童が多い。しかし、ゴールイメージのモデルに、頑張って学習するとできそうと思える内容を提示した際、「面白そう」「やってみたい」という気持ちをもって、学習活動に参加できる姿が見られた。そこで、本単元では、ポスターというゴールを設定し、キャッチコピーやイラスト、筆者の言葉の引用、これまでの自分の経験など、書く項目を細かく分け、スモールステップで単元のためあてに迫ることができる活動を設定した。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 【言葉の力に着目した学習過程の工夫】

① 見通す

- ・ポスターのモデルを示し、学習意欲を高め、見通しをもたせる。

ポスターを基に発表することや、廊下掲示することを伝え、校内全体に宣言を行うという目的意識と相手意識、場意識をはっきりともたせる。

② 考えをもつ

- ・思考ツールを活用し、読み取った内容や、自分の考えを可視化し整理することで、自分の思いや考えを明確に主張できるようにする。

③ 共有する

- ・明確な視点をもって、友達のポスターを読み合うことで、友達のよい点を見付ける。また、改めて自分のポスターを見直すきっかけとなるようにする。

④ 振り返る

- ・自分の思いや考えが、友達に的確に伝わっているのかを振り返り、よりよいポスター作りに向かうための振り返りを行う。

(2) 【指導方法の工夫】

- ① 思考ツール「ベン図」を使うことで、筆者の考えや自分の考えを比較したり、整理したりさせる。

- ② 友達のポスターを読み合う活動では、思考ツール「三角レーダーチャート」を用いる。視点を明確にして、評価し合う活動を通し、自分の考えを広げたり深めたりさせる。

- ③ ICT(Google Jamboard)を使用して思考ツールを活用することで、効率的かつ視覚的に話し合いができるようにする。また、教員と児童間でデータを共有することで、継続的な指導や評価ができるようにする。

(3) 【言語感覚の育成】

- ① 思考に関する語句などを教室に掲示し、自分の考えをまとめたり、表現したりする際に、活用できるようにする。

- ② 「使いたい言葉や名言ボックス」を常時活動で作成し、タブレットから閲覧できる状況を設け、自分の考えにより近い言葉で表現できるようにする。

6 単元の指導計画と評価計画（8時間扱い）

次	時	○目標	・主な学習活動	観点 主とする評価 (評価方法)
第1次	1	○単元のめあてを確かめ、学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習でまとめた自分が大切にしてきたものや考え方を振り返る。 単元の学習課題を設定し、学習計画を立てる。 初発の感想を書く。 	イー③ (観察・ノート)
	2	○「メディアと人間社会」を読み、論の展開の仕方や表現のしかた、筆者の主張を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> 「メディアと人間社会」の論の展開の仕方や表現の仕方を捉え、筆者の考えを読み取る。 ベン図の池上さんの考えの枠に書き込む。 事例から自らの知識や経験と比較し、感じたことや考えたことをまとめる。 	アー① (発言・ノート) イー① (ノート) イー② (ノート・ベン図)
	3	○「大切な人と深くつながるために」を読み、論の展開の仕方や表現の仕方、筆者の主張を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> 「大切な人と深くつながるために」の論の展開の仕方や表現の仕方を捉え、筆者の考えを読み取る。 ベン図の鴻上さんの考えの枠に書き込む。 事例から自らの知識や経験と比較し、感じたことや考えたことをまとめる。 	アー① (ノート) イー① (ノート) イー② (ノート・ベン図)
第2次	4	○二つの文章を比べ、それぞれの特徴や共通点を整理し、自分の知識と経験とを照らし合わせる。	<ul style="list-style-type: none"> ベン図を用いて、筆者の考えの共通点を整理する。 自分の知識や経験と筆者の考えを比較し、共感できる点とそうでない点についてまとめる。 	イー② (ノート・ベン図)
	5	○ポスターのおおまかな下書きを書き上げる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の知識や経験の中で改めて大切であると考える主張をまとめる。 主張を支えるために、引用する言葉を池上さんや、鴻上さんの文章から選ぶ。 自分の大切であると考える主張の仮のキャッチコピーを複数考える。 	アー① (発言・ポスター) イー② (発言・ポスター)
	6 【本時】	○ポスターの内容を交流し、キャッチコピーを決める。	<ul style="list-style-type: none"> 友達とポスターを読み合い、「三角レーダーチャート」を用いて相互評価をする。 友達の評価を受け、改めて自分のポスターを見直し、キャッチコピーを決める。 	イー③ (レーダーチャートを活用したワークシート・ポスター)
第3次	7	○ポスターを清書し、書き上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ポスター用紙にこれまでの学習で形成してきた自分の考えを表現する。 	イー② (ポスター) ウー① (観察)
	8	○クラス内交流で、自分のポスターを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 第6時とは異なる小グループに向けて、ポスターの発表と質疑応答を行う。 単元の学習を振り返る。 	イー③ (発言・ポスター・ワークシート)

7 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・言葉のプレゼントポスターの下書きを基に交流を行い、キャッチコピーの内容を決める。

(2) 本時の展開 (6/8時)

分	学習活動	指導の工夫 ・留意点 ☆評価規準【評価方法】
導入 10分	1 前時の振り返りをする。 本時のめあてを捉える。	・相互評価の目的は、キャッチコピーの言葉に こだわって決めることを押さえる。
	ポスターの下書きを読み合い、こだわったキャッチコピーを決めよう。	
	2 三角レーダーチャートの評価方法を 確かめる。	・引用文、知識や経験を先に読み、キャッチコピ ーの言葉と照らし合わせて評価するように指 導する。
展開 30分	3 ポスターの下書きを読み合い、レー ダーチャートに評価の数字と理由を 箇条書きで書き込む。	・あらかじめ、ポスターのコピーと Google Jamboard のベン図を見ておくように指導し、 すぐに評価活動できるようにしておく。 ・交流の手順を可視化し、学習の見通しをもた せる。
	4 互いの評価カードから、気付いたこ とやアドバイスを伝え合う。 ※3～4の活動をグループで計3人 と交流を行う。	・「使いたい言葉や名言ボックス」や教室内掲示 の使いたい語句について触れ、より多くの語 句の中からこだわってキャッチコピーを決め られるようにする。
	5 友達の気付きやアドバイス、ポスタ ーのよさを基にして、自分のキャッチ コピーを決める。	☆友達のポスターを読んで、まとめた意見や感 想を共有し、自分の考えを広げたり深めたり してキャッチコピーの内容を決めている。 【レーダーチャートを活用したワークシート・ ポスター】
まとめ 5分	6 学習を振り返り、次時の見通しをも つ。	・単元の振り返りカードに、本時の活動の振り 返りと次時の学習に対する見通しを書くとい う視点を与える。

若草学級国語科学習指導案

対 象 若草学級 6名
(3年生1名、4年生3名、
5年生1名、6年生1名)
授業者 亀竹 敬
場 所 若草ホール教室

1 単元名「若草学級のよさを1年生に紹介しよう」

2 単元の目標

○聞き手を意識して、声の大きさや速さ、間の取り方などを意識して発表することができる。

(思考・判断・表現)

○伝えたい内容を整理して、順序よく伝える方法を理解することができる。(知識・技能)

○伝えるために必要な事柄を集めて整理することができる。(思考・判断・表現)

3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	① 伝えたい内容を整理し、順序よく伝える方法を理解している。 ② 聞き手にとって聞きやすい声の大きさや速さなどを理解している。	① 伝えるために必要な事柄を集め、整理している。 ② 順序立てて説明している。 ③ 姿勢や声の大きさや速さなどを意識して発表したり聞いたりしている。	① 若草学級の良さについて、必要な情報を集めようとしている。 ② 若草学級の良さについて、すすんで伝えようとしている。 ③ 友達の発表を聞いて、感想を伝えようとしている。

4 単元構想

(1) 単元観

本単元は、声の大きさや速さ、間の取り方など、聞き手に分かりやすい発表の仕方を学習することを目的としている。また、伝えたい内容に沿って、情報を集め、整理して、順序よく伝えることもねらいとしている。「若草学級のよさを1年生に紹介する」という共通の学習の目的をもたせることで、学習グループの友達の発表を互いに見合い、考えや意見を交流しながら、発表の内容を検討したり仕方を身に付けさせたりしていく。また、学級内の1年生にインタビューをするなど、意図的に関わる機会を増やししながら、1年生のことをよく知り、仲を深められるようにしていく。

(2) 児童観

本グループは、3年生1名、4年生3名、5年生1名、6年生1名、計6名からなる習熟度別グループである。2学期には、自分の好きな物について、伝えたいことを整理して話型を基に話す学習をしている。また、昭島市の魅力を伝える学習では、発表の仕方について、互いの意見を取り入れる様子が見られた。これらのことから、話し方のまとめ学習として本単元を進めていく。

『話すこと』については、話す意欲は高く、自分から友達に話し掛ける児童が多い。一方で、話す内容を整理することが難しいため、相手に内容が伝わりにくいことが多い。そのため、上記の学習内容や週に1回「休日の出来事」をテーマにしたスピーチの時間を設け、話の構成や話し方について学習を積み重ねている。その中で、話す順番を意識したり話型を基に話そうとしたりする姿が見られるようになってきた。「聞くこと」については、少しずつ話す時間と聞く時間を理解したり、相手の目を見て黙って聞いたりする様子が見られるが、十分ではない。また学習内容への理解の差や、興味関心の違いが大きく、相手の話を聞くことが難しいため、教材を精選するなどの支援が必要である。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 【言葉の力に着目した学習過程の工夫】

①単元の流れの工夫

- ・めあて… 児童が主体的に学習に取り組むことができるように、学習の目的を「若草学級の良さを1年生に紹介する」と明確にした。
- ・見通す… 児童が学習の目的をより具体的にイメージして学習に取り組むことができるように、学習の最初に教師が作成したモデルを示す。
- ・考えをもつ… 「若草学級の良さ」をテーマに、ウェビングマップを用いて、紹介したい内容を集めたり、クラゲチャートで整理したりする。また、紹介したい内容に沿って、SKYMENUのシンプルプレゼン機能を用いて、必要な写真や言葉を選んでスライドを作成する。
- ・共有する… それぞれが考え作成したスライドや発表動画を互いに見合い、発表の内容や発表の仕方について検討することができるようにする。
- ・振り返り… 自己の変容が見取れるように、学習前と学習後の成果物を写真や動画で比べられるようにする。

(2) 【指導方法の工夫】

- ①自分の考えを可視化して、広げたり整理したりすることができるように、思考ツールを活用する。
- ②伝えたい内容に沿った写真を入れること、文章の内容を推敲しやすくすること、互いの意見を交流する際に画面上で操作しやすくすることなどを目的として、SKYMENUのシンプルプレゼン機能を使用する。
- ③発表の仕方を常に意識できるように、話型や発表の仕方などを載せた「伝え方ハンドブック」を作成する。
- ④自分の発表を客観的に振り返り改善に生かすために、タブレットのカメラ機能を使用する。

(3) 【言語感覚の育成】

- ①話型を意識して話すことができるように、理由を話すときには「～ので、～です。」、いくつかのことを話すときには、「～は、〇つあります。一つめは、～です」などの話型を教室に掲示する。
- ②発表の仕方を確認することができるように、原稿文に、ゆっくり読む、間を空けて読むなどを記号化して書き込むなど、分かりやすく示す。

6 単元の指導計画と評価計画（11 時間扱い）

	時	○目標	・主な学習活動	観点 主とする評価 (評価方法)
第1次	1・2	○若草学級について、どんなことを紹介したいのか考え、単元の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間を振り返り、写真で振り返り、思い出に残っていることを発表する。 ・ウェビングマップで若草学級のどんなところを紹介したいのか書き出す。 ・教師が作成した学級紹介動画（モデリング）を見て、学習計画をたてる。 	ウー① (発言・ワークシート)
	3	○紹介する内容について詳しく考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介する内容の役割を決める。 ・紹介する内容について、クラゲチャートを用いて、整理して考える。 	イー① (観察・ワークシート)
第2次	4・5・6・7	○紹介する内容や友達について、文章を考えたり、必要な写真を集めたりして、スライドを作成する。	(SKYMENU シンプルプレゼン) <ul style="list-style-type: none"> ・紹介する内容について文章を考えたり、内容に合った写真をインターネットで検索し、選んだりする。 ・紹介する友達に、インタビューをする。 ・作成したスライドに沿って、発表し合い、意見交換をする。 ・スライドの内容を見直す。 	イー① (観察・行動) ウー③ (観察・行動)
第3次	8	○紹介する内容の原稿を作成して、話型を基に伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「○○は三つあります。一つめは～です。」「例えば～です。」などの話型を用いた話し方を知る。 ・話型を用いて、原稿を作成する。 	アー① (観察・発言) イー② (観察・発言)
	9	○声の大きさや速さなど、聞き手に分かりやすい発表の仕方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手にとって、分かりにくい発表と分かりやすい発表を比べる。 ・発表の目標を決め、練習をする。 ・タブレットで自分が発表している様子を撮影する。 	アー② (観察・発言)
	10 【本時】	○聞き手を意識して、声の大きさや速さ、間の取り方などを工夫して発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に撮影した発表動画を互いに見合い、意見交換をする。 ・自分の発表を見直し改善をする。 	イー③ (観察・発言) ウー③ (観察・発言)
	11	○若草学級の良さを1年生に向けて発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドに沿って、若草学級の良さを1年生に向けて発表する動画を撮影する。 	ウー② (観察・発言)

7 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・聞き手を意識して、声の大きさや速さ、間の取り方を工夫して発表することができる。

(2) 本時の展開 (10/11)

分	学習活動	指導の工夫・留意点 ☆評価規準 (評価方法)
導入 5分	1 学習の流れを確認し、見通しをもつ。 2 ^{スリー} 3 ヒントクイズゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の流れが分かるように、箇条書きで示す。 ・誰もが答えられるような問題にしたり体を動かしたりするなど、楽しみながら取り組める活動にする。
展開	3 前時までの学習内容を振り返る。 4 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時にまとめた分かりやすい話し方について、掲示をする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ^き ^て ^い ^し ^き ^は ^つ ^び ^{ょう} ^し ^か ^た ^く ^ふ ^う 聞き手を意識して、発表の仕方を工夫しよう。 </div>	
10分	5 交流の仕方を知る。 ・教師が作成したモデリングを見て、交流の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手は、話し手の目標が達成しているかどうか確認しながら動画を見る。
15分	6 1回目の交流をする。 ①発表の目標を伝える。 ②動画を見る。 ③気付いたことを伝える。 ④目標シートを見ながら、評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手は、話し手の原稿を見ながら動画を見る。 ・気付いたことは、動画を一時停止して伝える。
8分	7 2回目の交流をする。 8 交流したことを基に、自分の発表の仕方を見直し、発表練習をする。 9 再度自分が発表している様子を撮影する。	<ul style="list-style-type: none"> ☆声の大きさや速さなどを意識して、発表している。(発言)
まとめ 7分	10 振り返りをする。 ・本時のめあてを確認する。 ・交流前の動画と交流後の動画を見て比べる。 ・友達との交流を通して、感想を発表する。 ・本時のめあてを3段階評価して、振り返りシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の発表目標のめあてを確認する。 ・二つの動画を見比べ、変化しているところを読み取るようにする。 ・児童の頑張りを評価する。